

横手市増田まんが美術館を中核とした地域資産活用地域計画

横手市地域資産活用推進事業協議会作成 【計画期間 令和2(2020)年から令和6(2024)年】

概要版

計画作成の背景

令和元年に「横手市増田まんが美術館」が大規模リニューアルオープンし、横手市増田地域は横手市増田伝統的建造物群保存地区と併せ、横手市の通年観光拠点として準備が整った。

今後は観光地としてのイメージの確立を目指し、「横手市増田まんが美術館」を中核として、横手市の有する多様な地域資源を生かした「文化観光」の推進に取り組んでいく。

また、関連する団体・事業者と協力し、新たな魅力の創出に努め、地域経済の活性化をめざすために本計画を作成する。

まんが美術館 主な目標数値

来訪者数

令和元年 141 千人を
令和6年 **160 千人**に

外国人来訪者数

令和元年 1 千人を
令和6年 **1.6 千人**に
令和11年まで2千人をめざす

HP 閲覧数

令和元年 1,014 千件を
令和6年 **1,025 千件**に

県外での認知度

令和元年 47.4%を
令和6年 **70%**に

文化観光における現状と課題

課題①

まんが美術館の認知度とマンガ原画の魅力紹介強化

「マンガ原画」の収集に特化した美術館というコンセプトを国内外に浸透させながら、いかに新たな「マンガ原画」ファンを生みつつ、リピーターへとつなげていくかが課題となっている。

課題②

市内文化観光を軸とした通過型観光からの脱却

一極集中の観光が多く、滞在時間も短いため観光消費が伸びていない。観光事業者や交通機関等と連携し、マンガ原画や観光、そして地域の魅力をセットにしたアピールに取り組む必要がある。

課題③

訪日外国人の受け入れ態勢整備の遅れ

外国人観光客が「観る、知る、学ぶ、味わう」ためのガイドやサポートといったソフト面の整備が遅れている。セミナーや研修会等を開催し、受け入れ体制の強化をしていく必要がある。

課題④

「モノ観光」から「コト観光」へのシフト

横手市における観光はイベントやハコモノ見物を中心とした受け身の観光が主流であったが、これからは旅行者自らが探索、発見、体験できる場所と来訪者を誘導する仕掛けが必要である。

文化観光推進のための取組強化事項と基本的な方向性

■取組強化事項① 文化資源の総合的な魅力の増進に関する事業

まんが美術館としての本来の役割を基本に置きつつ、国内外の旅行者にマンガ原画やデジタルアーカイブ資料を中心とした魅力、マンガ文化の魅力を伝え、さらなる魅力の向上を図る。

また、当市のさまざまな地域資源に恵まれていることから、これらの地域資源を掘り起こすとともに、その磨き上げを行い、市内各地の文化観光スポットにも旅行者に周遊させるための取組を行う。

- マンガ活用アドバイザー事業
- 地域連携による魅力あるツアー造成事業
- まんが美術館ユニークベニユー事業
- 建造物文化財等調査事業(市全域)
- 増田のまちなみ活用起業支援事業
- 観光ボランティアガイド養成事業 ほか

■取組強化事項② 観光旅客の移動等の利便の増進に関する事業

旅行者がストレスなく快適に観光するために、施設や公共交通機関等の案内表示の多言語対応をはじめ、2次交通の利便向上に加え、新たな着地型旅行商品の造成にもつなげていく。

- 2次アクセス連携事業
- モバイル Wi-Fi ルーターレンタル事業
- 横手市増田まんが美術館案内機能強化事業 ほか

■取組強化事項③ 企業・団体等との連携の促進に関する事業

地域資産の付加価値を高めた商品の開発、販売による地域の認知度向上に取り組み、まんが美術館を活用したユニークベニユーで市内企業のほか、文化施設等とも連携を強化する。

- 「秋田県りんご栽培発祥の地」事業
- リンゴ染めまんが美術館商品開発事業
- マンガを活用した地元食等活用食品開発事業 ほか

■取組強化事項④ 国内外における地域の宣伝に関する事業

国内外からの誘客を促すために、文化観光資源のブランド化を図るとともに、ターゲットの属性を明確にした戦略的な情報発信を実施する。

- 横手市増田まんが美術館 PR バスラッピング事業
- 利便性の増進情報発信事業
- 横手市増田まんが美術館 情報発信事業 ほか

■取組強化事項⑤ 市内文化観光促進のための設備等整備事業

旅行者が楽しめる自然環境や風景、歴史・文化遺産等を文化観光資源として磨き上げ、マンガと合わせたテーマで季節ごとの情報発信などを行い、新たな魅力の創出に取り組んでいく。

- 案内板設置事業
- 果樹園景観眺望視点場整備事業
- 「三平の里」整備事業 ほか